

あきいなわてこせんじょう
浅井暇古戦場

| | |
|-------|------------------|
| 種 別 | 県指定文化財 史跡 |
| 指定年月日 | 昭和 16 年 7 月 26 日 |
| 所 在 地 | 大領町 |

浅井暇の戦いは、北陸における「関ヶ原の戦い」として、慶長 5 年（1600）に東軍方の金沢城主・前田利長と、西軍方の小松城主・丹羽長重が戦った合戦である。

東軍方につき、南加賀や越前に進軍していた前田利長であったが、金沢への退却に際し、この地で丹羽長重軍の攻撃を受けた。この戦いにおいて、前田軍は苦戦しながらも金沢への撤退を果たしたが、前田軍の殿を務めた武将・長連龍配下の 9 人の武士が戦死したと伝えられている。

古戦場には戦死した九士の石塔が建てられている。墓のような形をとるが埋葬は無く、没後しばらくしてから建てられた供養塔である。石塔の向き、配置などが不規則であるが、これは九士が倒れた方向に向けて石塔を建てたためともいわれる。

塔の造立時期は、堀内一秀軒の塔の万治 3 年（1660）が最も早く、安永 9 年（1780）には現在ある堀内、八田三助吉信、長中務連朗、小林平左衛門秀備、鈴木権兵衛重国、岩田新助吉忠の 6 塔の他、「六嶋少三郎」と刻名された石塔が確認されている。この後に柳弥平次、隠岐覚衛門、鹿島路六左衛門の 3 塔が建てられた。

